

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年11月9日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.63】

革マル資金源として警察はJR総連からの流入金を指摘！

これまで、革マル派の非公然アジトについて検証してきたが、警察庁広報誌「焦点」(258号)は同派の表向きの拠点として、都内早稲田の「解放社本社」と「解放社」の北海道、北陸、東海、関西、九州、沖縄の6支社の存在と、裏の活動拠点として、玉川台、西葛西、竹の塚、王子、綾瀬、豊玉(東京都)、浦安(千葉県)、大和、厚木(神奈川県)、津幡(石川県)、福井(福井県)、生駒(奈良県)、尼崎、神戸(兵庫県)の非公然アジトの存在について紹介している。西岡研介著「マングローブ」には札幌アジト(北海道)についての記載もある。警察が摘発しただけでも、これだけのアジトがあるというのだ。発見されていない非公然アジトは、全国に何箇所あるのだろうか。これだけのアジト等を維持し、日々、違法な調査活動や武器の製造などを行うには、果たして、どれくらいの資金が必要なのだろうか。「マングローブ」には、革マル派の資金に関して、以下の記述がある(p.224)。

96年に警視庁が摘発した綾瀬アジトは3LDKで、家賃は当時で月額、管理費込みで9万8000円だった。豊玉アジトでは、練馬区の6階建て雑居ビルのうち、5階の1室と6階のワンフロアを使用。5階は宿泊兼事務室、6階は事務所として使用していたのだが、それぞれの家賃は月額9万3000円と、23万8000円だった。しかも革マル派はこの2室を86年から、つまりは摘発される10年以上前からアジトとして使用していたのである。いったい、これらの潤沢な資金はどこから出ているのだろうか...

また、警察が作成したとみられる革マル派「綾瀬アジト」の押収物の解析資料には、同派の財政について、「No.6」で紹介した通り、次の驚くべき記載がある(宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」p.69)。

財政は、中核派や革労協狭間派等の他派に比べると、かなり安定していると思われるが、その要因は、産別同盟員から、同盟費とカンパが定期的に入ること、JR 総連等の労働組合や大学の掌握自治体等からの流入金があること、また、ゲリラ等による支出がないこと等によると思われる。革マル派は、「創造社」を除き、「解放社」等同派の施設は、昭和57年から平成元年までの7年間に約20億3000万円で新築したり購入したりしていることから、これをみても同派の財政の豊かさが窺われる。

警察資料「松崎氏がかなりの金額を組合費から革マルに流出」と記載！

非合法活動を行う組織が、20億円以上もの資金で施設を新設、購入できるというのは、常識でとても考えられない。そして警察は、JR総連からの流入金について明確に指摘している。元東労組中央執行委員の本間雄治氏は、裁判でJR内での革マルカンパの実態を証言した(No.7)。そして、「綾瀬アジト」解析資料には、「松崎は、昭和62年頃から平成5年の間に数千万円を活動費として組織にカンパしているが、その他にも『必要な金は作るから、とにかく組織を作れ』などと指示していることから、かなりの金額をJR東労組(JR総連)の組合費等から革マル派に流出させているものとみられる」との記載がある。「松崎」とは、言うまでもなく、元東労組会長の松崎明氏のことだ。

次号では、この資料における松崎氏に関する驚愕的な指摘について紹介していきたい。